

あきたみどり 加工適性に優れた早熟、良質安定多収の青大豆。

1 加工適性

(1) 加工上の長所・短所

秋田県の在来種「青目大豆」に放射線を照射し、突然変異により早生、短茎化を図った品種です。加工適性は原品種である「青目大豆」と大きな違いはなく、子実成分（粗蛋白、粗脂肪、灰分）、豆乳成分、オカラ成分とも「青目大豆」並で、豆腐は破断強度、ヤング率が高く物性は良好です。子実は「極大粒」で、粒形は「扁球」、種皮及び子葉の色は緑色で煮豆としても利用できます。裂皮の発生が原品種並みにみられます。

(2) 品質に関するデータ

項目	あきたみどり	青目大豆	秋試緑1号
粒大	極大	極大	極大
百粒重(g)	44.2	44.3	40.7
へその色	黒	黒	黒
粗蛋白質含有率(%)	41.2	42.7	41.2
粗脂肪含有率(%)	14.3	12.4	13.1
種皮の色	緑	緑	緑
粒の子葉色	緑	緑	緑
粒形	扁球	扁球	扁楕円体

注1) 平成7～10年度秋田県農業試験場大豆奨励品種決定調査結果。

2) 子実粗蛋白質含有率、粗脂肪含有率は平成8年度秋田県総合食品研究所による分析結果。

(3) 主な用途における加工適性試験成績

・豆腐加工適性試験の成績（秋田県総合食品研究所）

項目	あきたみどり	青目大豆	秋試緑1号
豆乳量／オカラ量	706/265	716/213	656/274
破断強度(g/cm ²)	60.0	57.3	36.3
ヤング率(dyn/cm ²)	269076	234235	198772
変形率(%)	22.1	24.2	18.2

注) 材料は平成7年秋田県農業試験場産を使用。

2 栽培特性

(1) 栽培上の長所・短所

原品種の「青目大豆」と比べ、成熟期が13日早く、主茎長が16cm短く、耐倒伏性が優れることから栽培しやすい品種です。収量は11%程度多く、粒揃いが良く、外観品質が良好です。ウイルス抵抗性及びシストセンチュウ抵抗性は持っていません。

(2) 栽培特性に関する育成場所での試験結果

項 目	あきたみどり	青目大豆	秋試緑1号
収量(kg/10a)	289	261	283
早晩性 (成熟期)	晩生の早 (10.19)	極晩生 (11.1)	中生 (10.13)
主茎長(cm)	86	102	69
主茎節数(節)	16.0	18.1	15.1
分枝数(本)	4.4	4.9	3.6
外観品質	上	中の上	上
耐倒伏性	やや強	中	強
ダイズシストセンチュウ抵抗性	弱	弱	弱
ウイルス病抵抗性	弱	弱	弱

注1) 平成7～10年度秋田県農業試験場大豆奨励品種決定調査結果。

2) ダイズシストセンチュウ抵抗性及びウイルス病抵抗性は平成7年及び平成9年東北農試大豆育成研究室による検定結果。

3 栽培地域（平成21年産）

— ha

4 栽培上の留意点

- 1) 秋田県内の播種適期は6月上旬～下旬で、遅播きほど密植にします。10a当たりの栽植本数は6月上旬で14,000本、6月中旬で18,000本、6月下旬は22,000本程度が適当です。倒伏を抑えるために、基肥施肥量は窒素成分で2.5kg/10a以内とします。
- 2) 晩生であるため、山間高冷地、小麦後作には適しません。
- 3) ダイズシストセンチュウ発生ほ場での作付けは避け、アブラムシ防除を徹底して下さい。品質確保のため適期収穫を行って下さい。

育成場所：秋田県農業試験場（平成10年育成）
問い合わせ先：秋田県農業試験場作物部畑作物担当
tel 018-881-3338 fax 018-881-3304